



[寄稿] Social-capital を活用した公衆衛生活動

子ども達から市民へ向けた新型コロナウイルス予防情報の発信

大浦 麻絵 (札幌医科大学医学部公衆衛生学講座・講師)

はじめに

公衆衛生学の持つ力の一つに social-capital があります。人々の繋がりを活用した健康戦略です。コロナ禍において人と人との物理的距離は少しだけ遠くなりましたが、私たちの研究班では、心の絆は強くするため social-capital を活用した予防活動を行っています。もしご興味がありましたら、あなたも仲間に入り、私たちと一緒に予防活動しませんか？

学童における感染症予防教育

私は本州生まれ、大学院で九州、北海道、就職で大阪、高知と日本を代表する4つの島に住んだことがあります。それ故、ちょっとの価値観の違いでは驚かない度胸はついていたつもりでした。しかし、北海道で子どもがお世話になっている児童会館に立ち寄った時に、予防活動の実態には大きな衝撃を受けました。確かに冬の水はとても冷たく、お湯は当然のように出ないですが、手を洗わない子、“ちゃっ”と一瞬水につけるだけの子が当たり前のように散見されているのです。感染症予防の基本の“き”である手洗いが出来ていない子がこんなに多いなんて・・・どうしたらよいだろうと真剣に考えました。そんな中、確か12月のインフルエンザシーズン到来時期、児童会館の先生から「予防啓発のポスターって、いいものご存知ないでしょうか？ あれば児童会館に貼りたいのですが・・・」と尋ねられました。これはチャンスかも！と思い、直ぐに病院に探しにいきました。しかし、がん予防や循環器疾患の予防の情報は山のようにありますが、肝心の子ども達が使えような感染症予防の情報を見つけることが出来ません。当時、教室を主宰していた森 満教授の助言もあり、無いなら自分で公衆衛生活動として実践していこうと思い立ちました。2017年度二条はるにれ児童会館単館で始動し、市内児童会館や小学校などを中心に2018年度は20か所、2019年度は15か所での教育活動を行いました。

地域で子ども達を守ろう！新型コロナウイルス撃退大作戦

感染症予防の公衆衛生活動を行う中、2020年新型コロナが襲ってきました。私たち研究班は今まで行ってきた公衆衛生活動の重要性を改めて認識し、新たな公衆衛生活動プロジェクトを始動させました(札幌医大 web: <https://web.sapmed.ac.jp/jp/news/press/jmjbbn000000th44.html>)。

プロジェクト活動の一つ、「手洗い徹底活動プロジェクト」では、感染症と戦わなければいけない教育現場の厳しい状況をなんとか応援したいと考え、毎月泡石鹸の現物支給を行っています。学校が予算を気にせず、子ども達や先生方が思う存分手を洗うことが出来る環境を整えること“のみ”が活動の目的です。残念ながら、私たちの研究班は現在限

られた予算しかなく、限定された支援となってしまっているのは大きな課題です。札幌市内のすべての小学校、中学校への泡石鹸をお届けできるよう協力を拡げていきたいという思いを持って活動しています。また、手洗い徹底活動プロジェクトの活動の中で得られた公衆衛生情報を共有する「情報共有できる仲間づくり」では随時、仲間を募集しています。

最終的には、プロジェクトが提供する情報などを元に、子ども達自身が予防啓蒙に積極的に取り組み、自分達で手洗いや感染予防のポスター・川柳などを作成して、市民に健康情報を発信してもらいます。子ども達が助けてもらいっぱなしではなく、自分にできることを行い、社会にお返しするシステム構築を目指し取り組んでいきます。

二条小6年生「病気の予防プロジェクト2020」

とやまびこ座のコラボ

新型コロナ予防対策をしながらですが、学校での教育活動も少しずつ行っています。その中の一つ、二条小学校6年生の総合的な学習では「病気の予防プロジェクト2020」として、子ども達が主体的に健康情報、情報リテラシーを学び、最終的に市民の皆様へ新型コロナ感染予防についての健康情報を発信する取り組みを行っております。現在24のグループが構成され、地下鉄構内やちえりあ、創生スクエアなどで発表する準備を進めています。対象を意識し、受け止める人にとり有用な情報か否かの内容の精査も学びの目標の一つとなります。その中の2グループは、とやまびこ座とコラボをするべく台本書きを頑張っています。先日はリモートを活用して館長と子ども達とで打ち合わせを行いました。また、研究班ととやまびこ座とのコラボとして前座「新型コロナウイルス〇×クイズ」も別プロジェクトとして制作することになりました。With コロナ時代、色々と活動が制限される中、子ども達の教育や文化を守るため、出来ることを少しずつ実現しようと多様な異業種が手を取り合って頑張っています。

是非、皆さん予防対策されて、劇場、公共の場にて、子ども達の発信した情報をご覧になってください。



略歴

東京都生まれ
札幌医科大学医学部公衆衛生学講座・講師
日本学術振興会・特別研究員、
国立循環器病研究センター研究所・研究員、
高知大学・助教、札幌医科大学・助教を
経て現職
数理学修士、医学博士、専門は公衆衛生学



「子どもの権利」と子どもの文化・芸術活動へのアクセス (2) あいうち・としかず

私は前回、「おとなの『思い込み』」について書きました。「子どもたちは経験も知識もあるおとなの言うことを聞いている方が良い」という思い込みのことです。児童会館を作っても、子どものための劇場を作っても、それをどう活用するかが重要なのです。

「ムーミン谷の仲間たち」という本の中に、「目に見えない子」というお話があります。ムーミンが大好きなひとはたくさんいますね。私も、ムーミントロールとムーミンママ、それに、ちびのミイとスナフキンが大好きです。目に見えない子の名前はニンニ。ニンニはおばさんからひどくおどされ、皮肉を言われ続けるうちに、言い返す気持ちも自分自身を保つ気力もなくなって、姿が見えなくなってしまったのです。ムーミンの家族やミイは、家に連れてこられたニンニを心配はするが特別扱いをせず、ひとりの人間としての存在を尊重するのです。ありのままの姿を受け入れられたニンニは、次第に自分自身を取り戻します。すると、つま先から少しずつ姿が見えるようになり、ついには全部の姿を現しただけでなく、ムーミンママを助けようと自発的な勇気ある行動に出たのです。

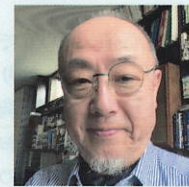
おとなは子どもたちを委縮させたり、型にはめようと強制したりして、子どもたちを自己主張できない、自己表現できない、「目に見えない子」にするパワーをもっています。しかも、これを「善意」でしてしまうことが多いのです。どうすれば、子どもたちが、生き生きと自分を表現し、「目に見える子」、「姿を見せる子」に育つようにできるでしょう。

実は、それは難しいことではありません。子どもたちに安心して意見を言えるようにおとなが自分を変えればよいのです。そして、おとなたちは、子どもたちの声が聞こえたら、自分たちのモノサシですぐにそれを判断したり評価せずに、子どもたちのモノサシを貸してもらって理解しようとするのです。(そう、「借りる」んじゃなく謙虚に「貸してもらおう」んです。)

ちびのミイはニンニに向かってはっきりと言いました。「あのさ、たたかうってことをおぼえないかぎり、あんたは自分の顔を持てるわけないわ。」と。子どもたちが自由に劇を創り上げるプロセスは、子どもたちを鍛え、「たたかうってことをおぼえる」すばらしい体験になるはず。そして、自己主張できる勇気をもてる子は、相手の自己主張を受け止める勇気をもてる子でもあるのです。

AIUCHI TOSHIKAZU

相内 俊一 先生



PROFILE

北海道教育大学、小樽商科大学、同大学大学院ビジネススクールで、政治学、公共政策・経営学などを教え、退職後はNPOの代表として、高齢者の介護予防、認知症予防、高齢者と子どもの助っ人センターなどの活動に取り組んでいる。
こぐま座・やまびこ座運営委員 (2018～)。

MA・SO・BO



本 シエルジュ

KONNO MICHIRO

今野 道裕 先生

名寄市立大学保健福祉学部
社会保育学科教授



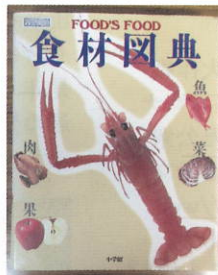
PROFILE

1955年生まれ
高校時代より人形劇活動を始める
小学校教員28年を経て
2006年～市立名寄短期大学教授
北海道人形劇協会理事
芸術と遊び創造協会会員
日本福祉文化学会会員
北海道教育学会会員
北海道芸術教育の会
ひとり人形劇団「オホーツク風雲
ワクワク団n」として活動中
著作：『作ってあそべる製作ずかん
～3・4・5歳児の保育に～』
(学研・2013年12月)

本の紹介③ 『食材図典』(小学館)

図鑑の魅力って、なんでしょうねえ。あらゆるものを並べてあって、ちゃんと分類されていて、知らなかった知識がいっぱい書いてある。眺めているとその世界に入り込んでしまいます。間違いなく、私は図鑑を見ることから始まって、本物の自然が好きになっていった人間です。昆虫・鳥・野草・きのこ・石ころ・イモムシ…、いっぱい持ってます。

これは『食材図典』なので、魚・肉・野菜・果物・穀類・スパイスという分け方になっているのも面白いでしょう。どのページも図鑑としての魅力満載ですが、部位ごとの写真とか料理の写真とか、普通の図鑑では出てこないコラムや写真もいっぱいあります。まだまだ食べたことのない食材がいっぱいありますねえ。そんな食材を眺めていると、ふいに今日の晩ご飯のメニューが決まったり…するかも知れませぬ。



657 美術館からのお知らせ

～657cmのちいさな美術館～

なかのいれい絵本原画展



「おぼけのマル」シリーズの絵を担当する、札幌市在住のイラストレーター&絵本作家なかのいれいさんの絵本原画を展示します。

- 期間：2021年1月10日(日)～2月13日(土)
- 時間：9:00～17:00
- 入場料：無料
- 会場：札幌市中島児童会館・こぐま座内

おぼけのマルとおともだちの
モビールをつくろう!

～れいさんと一緒にモビール制作をします～

- 日時：1月14日(木) ①10:00～12:00
②13:30～15:30
- 対象・定員：小学生(各回10名)
- 参加費：500円
- 会場：中島児童会館
- 申込：12月15日(火)より電話受付開始

編集後記

この一年で、すっかり手洗いが習慣化され、私の娘(1歳)も一丁前に腕をまくり、泡を出し、自分で手を洗います。子どもの適応力、学習能力に毎日驚かされると同時に、想定外の動きや発想に笑いと感心の連続です。

物事の一面だけにこだわらず、多角的に捉える余裕を持って、仕事や人、人生に向き合っていきたいものです。色々なことに興味があって、引出しがたくさんある人ってなんだか魅力的ですよ! (山澤)

【お問い合わせ・申し込み】

札幌市中島児童会館 Tel 011-511-3397

札幌市こども人形劇場こぐま座 Tel 011-512-6886

住所：札幌市中央区中島公園1-1

(地下鉄南北線中島公園駅下車3番出口より徒歩1分)